

平成 25 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価結果について

平成 25 年 12 月 24 日
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
研究開発評価部会

科学技術振興調整費により実施したプロジェクトについては、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会の定める「科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」に基づき、文部科学省より事務委託を受けている(独)科学技術振興機構が、外部有識者からなる評価作業部会を設置・運営し、事後評価を実施した。

平成 25 年度評価対象プロジェクトについては、平成 25 年 9 月～10 月に各評価作業部会による事後評価が行われた。

今般、その評価結果を取りまとめたので報告する。

1. はじめに

平成 25 年度の事後評価については、総合科学技術会議の定める「国の研究開発評価に関する大綱的指針」、「科学技術戦略推進費に関する基本方針」、また、文部科学省が定めた「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」等を十分に踏まえた評価を実施するため、平成 25 年 3 月 19 日に開催された科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会において、「科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」を決定したところである。

当該事項に基づき、評価対象プロジェクトの専門分野・領域等を勘案して、当該分野・領域の専門家及び有識者から構成される 3 の評価作業部会を設置し、これらの評価作業部会において「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」、「イノベーション創出若手研究人材養成」、「女性研究者支援モデル育成」の 3 プログラムにより実施した 29 プロジェクトについて、書面評価・ヒアリング評価を行った。

また、プログラムオフィサー(PO)が主査補佐として評価作業部会に参画し、評価作業部会運営に際して主査を補佐するとともに、プロジェクト管理等で把握した状況等の説明を行った。

2. 平成 25 年度評価の実施経緯

各評価作業部会の開催経緯は以下のとおりである。

評価作業部会	評価作業部会開催内容	開催日
若手研究者の自立的研究環境整備促進評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・若手研究者の自立的研究環境整備促進 9プロジェクト	9/24
イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・イノベーション創出若手研究人材養成 10プロジェクト	9/4
女性研究者支援システム改革評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・女性研究者支援モデル育成 10プロジェクト	10/5

3. 評価結果概要

プログラムごとのプロジェクト評価結果の概要を以下に述べる（詳細は別紙及び資料 2-2 参照）。

- 総合評価
- S. 所期の計画を超えた取組が行われている
 - A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 - B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 - C. 総じて所期の計画を下回る取組である

プログラム名	事後評価				
	総数	総合評価			
		S評価	A評価	B評価	C評価
若手研究者の自立的研究環境整備促進	9	2	4	3	0
イノベーション創出若手研究人材養成	10	3	4	2	1
女性研究者支援モデル育成	10	1	6	3	0
計 (29プロジェクト)	29	6	14	8	1

4. 評価結果の反映

今回、評価を実施する上で評価作業部会委員等から寄せられた意見・コメントについては、今後のプロジェクト管理及び評価のプロセス等に適切に反映させていく予定。

5. 評価結果の取扱

事後評価結果のとりまとめに当たっては、被評価者に意見提出の機会を与え、評価プロセスにおける評価者と被評価者のコミュニケーションの確保を図った。なお、被評価者から提出された意見は、今後の評価方法等に反映することとする。

また、評価結果については、本部会での評価決定後に公表するとともに、総合科学技術会議への報告対象となった場合には、総合科学技術会議への報告を行う。

評価結果概要

1. プログラム毎の評価結果の概要を以下に述べる。

なお、本年度のプロジェクト評価基準については、次のとおり。

- 【総合評価】 S. 所期の計画以上の取組が行われている
 A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 C. 総じて所期の計画を下回る取組である

(1) 若手研究者の自立的な研究環境整備促進

平成24年度に支援が終了した9プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち2プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、4プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの3プロジェクトについては、人材養成システム改革が十分ではなく、目標達成度が所期の目標をやや下回っていることから総合評価は「B」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	2	4	3	0	9

(参考)

◇制度概要：若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニユアトラック制（公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が厳正な審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み。）に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり2億～3億円／年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

(2) イノベーション創出若手研究人材養成

平成24年度に支援が終了した10プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち3プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、4プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの2プロジェクトについては、人材養成システム改革が十分ではなく、目標達成度が所期の目標をやや下回っていることから総合評価は「B」と判断され、1プロジェクトについては、目標達成度が所期の計画を下回っており、今後の進め方の見通しが明瞭でないことから総合評価は「C」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	3	4	2	1	10

(参考)

◇制度概要：イノベーション創出の中核となる若手研究人材（博士後期課程の学生や博士号取得後5年間程度までの研究者）が、狭い学問分野の専門能力だけでなく、国際的な幅広い視野や産業界などの実社会のニーズを踏まえた発想を身に付けるシステムを機関として構築する取組に対し支援する。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり7千万～1億円／年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

（3）女性研究者支援モデル育成

平成24年度に支援を終了した10プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち1プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、6プロジェクトについては、所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの3プロジェクトについては、システム改革が十分ではなく、目標達成度が所期の目標をやや下回っていることから総合評価は「B」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	1	6	3	0	10

(参考)

◇制度概要：優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、環境整備や意識改革など研究活動を継続できる仕組みを構築するモデルとなる優れた取組を支援する。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり5千万円／年を上限

◇実施期間：原則3年間

2. プロジェクト評価結果一覧

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」(事後評価)

若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 国際公募・選考・業績評価	III. 人材養成システム改革(制度設計に基づく実施内容・実績)	IV. 人材養成システム改革(制度設計に対するマネジメント)	V. 実施期間終了後における取組	VI. 中間評価の反映
優れた若手研究型教員の人材養成システム	千葉大学	齋藤 康	A	a	a	a	a	a	a
若手グローバル研究リーダー育成プログラム	静岡大学	伊東 幸宏	A	a	a	a	a	a	a
わが国の将来を担う国際共同人材育成機構	京都大学	松本 紘	B	b	a	b	b	b	b
生命科学独立アプレンティスプログラム	大阪大学	平野 俊夫	A	a	a	a	a	s	a
自立若手教員による異分野融合領域の創出	岡山大学	森田 潔	S	s	a	s	s	a	a
上級研究員センターの創設による人材養成	愛媛大学	柳澤 康信	A	a	a	a	a	a	a
亜熱帯島嶼加賀字研究拠点を担う若手研究者育成プログラム	琉球大学	大城 肇 (岩政 輝男)	B	b	a	b	b	b	a
地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点	大阪府立大学	奥野 武俊	S	s	s	s	s	s	s
「細胞と代謝」の基盤研究を担う若手育成	慶應義塾大学	清家 篤	B	b	b	b	b	a	b

* 総括責任者欄の () 内は実施期間中における総括責任者

「イノベーション創出若手研究人材養成」(事後評価)

イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成後	II. イノベーション人材養成システム改革状況	III. 実践プログラムの開発・運用状況	IV. 実施体制	V. 今後の進め方
アグロイノベーション研究高度人材養成事業	東京農工大学	松永 是	S	s	s	a	s	a
プロダクティブリーダー養成機構	東京工業大学	三島 良直	A	a	a	a	a	a
社会貢献若手人材育成プログラム	名古屋大学	濱口 道成	S	s	s	a	s	a
先端技術グローバルリーダー養成プログラム	京都大学	松本 紘	C	c	b	c	b	c
協働育成型イノベーション創出リーダー養成	大阪大学	平野 俊夫	A	b	a	a	a	a
革新的研究開発リーダー養成システムの構築	九州大学	有川 節夫	B	b	b	b	b	b
キャリア目標に応じた人材養成の戦略的展開	北陸先端科学技術大学院大学	片山 卓也	B	b	b	b	b	b

地域・産業牽引型高度人材育成プログラム	大阪府立大学	奥野 武俊	S	a	s	s	s	a
PhD 躍動メディカルサイエンス人材養成	慶應義塾大学	清家 篤	A	a	a	a	a	a
実践的博士人材養成プログラム	早稲田大学	鎌田 薫	A	a	a	a	a	a

「女性研究者支援モデル育成」(事後評価)

女性研究者支援システム改革評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 取組	III. システム改革	IV. 実施体制	V. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性
つがるネッサンス! 地域でつなぐ女性人才	弘前大学	佐藤 敬	A	a	s	a	a	a
共生の時代を拓く、いわて女性研究者支援	岩手大学	藤井 克己	S	a	s	s	a	s
多様性活力発揮に向けての女性研究者支援	岐阜大学	森 秀樹	A	a	a	a	a	a
徳島大学 AWA (OUR) サポートシステム	徳島大学	香川 征	A	a	a	a	a	a
香大発、地域ぐるみ女性研究者支援の高波を	香川大学	長尾 省吾	A	a	a	a	a	a
愛媛大学「坂の上の雲」女性研究者育成プラン	愛媛大学	柳澤 康信	A	b	a	b	a	a
地域社会で育む『輝く女性研究者』支援	大分大学	北野 正剛	B	b	b	b	b	a
しなやか女性医学研究者支援みやこモデル	京都府立医科大学	吉川 敏一	B	b	a	b	b	a
元気! 活き生き女性研究者・公立大学モデル	大阪府立大学	奥野 武俊	A	b	a	a	a	a
Mastery for Service に基づく女性研究者支援	関西学院大学	井上 琢智	B	b	b	b	b	b